

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

50 年を超える歴史と伝統を継承する中で、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人材を育成する学校をめざす。 1 規律を守り、思いやりと感謝の気持ちを忘れず、夢と志をもって常に挑戦し、計画性を持って努力を続けることのできる生徒の育成。 2 情熱をもって生徒を指導し、教職員自らが課題を発見し、主体的に解決を図ることができる教職員集団の形成。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 教科指導を充実させ、学力を向上させる。 ア 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に定着させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。 イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善に取り組み、生徒を鍛え伸ばす授業を展開する。 ウ 1人1台端末や ICT 機器等を活用し、学習に向かう意識を向上させ、家庭学習時間を増加させる。 ※授業アンケート満足度 R8：3.3【4段階】(R3:3.3,R4:3.3,R5:3.3) ※生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」肯定率 R8：60％(R3:56%,R4:54%,R5:53%) (2) 進路指導を充実させ、チャレンジ精神をもって進学・就職に取り組んでいく姿勢を育成する。 ア 3年間を見通した進路指導計画を確立し、学力生活実態調査等を活用して、時機を捉えた進路指導に努める。 イ 進路選択に対する意欲を喚起するために、様々な機会を設定し、その内容の充実を図る。 ※一般入試受験者数 R8：40%以上を維持 (R3:37%,R4:40%,R5:30%) ※希望する進路達成率 R8：85%以上を維持 (R3:87%,R4:89%,R5:98%) (3) 教育改革に対応したコース内容の一層の充実を図るとともに、学力の3要素【知識・技能】【思考力、判断力、表現力】【学びに向かう力】と英語4技能の確実な習得をめざす。 ア 「英語専門コース」では、英語でのコミュニケーション能力を一層向上させ、実践的で総合的な英語力を身に付けさせる。 イ 「理数専門コース」「理数選択コース」では、基礎・基本の学習及び観察・実験等を通して、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせる。 ウ 「学芸コース」「文系選択コース」では、興味・関心や進路に応じた様々な選択科目を設定し、個々の進路実現を図る。 ※英語検定準2級合格率 R8：35%以上を維持 (R3:51%,R4:43%,R5:25%) ※理数コースの理系進路達成率 R8：70%以上 (R3:84%,R4:81%,R5:80%) 2 豊かな人間性の涵養 (1) 特別活動や部活動、地域と連携した活動等を通して、自主性、協調性を養い、自分の価値を感じ、自己承認できる力を高める。 ア 学校行事や生徒会活動等において主体的な取り組み、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。 イ 地域と連携した活動や部活動等に積極的に取り組み、目標達成に向けての課題を発見し、主体的に取り組む姿勢を醸成する。 ※部活動や行事に対する満足度 R8：80%以上を維持 (R3:84%,R4:86%,R5:76%) (2) 基本的生活習慣を定着させるとともに、規範意識を醸成する。 ア ルールやマナーを守り、登下校時や校内でのあいさつを元気よく行い、思いやりを持って行動できるよう意識の向上を図る。 イ 一貫性があり、生徒を育てる生徒指導により、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。 ※遅刻者数 R8：10名/日 未満を維持 (R3:5.5人,R4:6.7人,R5:7.1人) (3) 人権教育を総合的に行うことにより、個性を理解し、お互いを尊重し、安全で安心な学校生活を送ることができるようにする。 3 生徒支援の充実 (1) 校内の教育相談体制を充実させ、支援の必要な生徒、課題を抱える生徒を適切に支援する。 ア 教職員間の速やかな情報共有・連携した対応を確実なものとする。 イ 生徒支援委員会、教育相談室等の機能を高め、不登校の防止・対応に努める。 ※学校評価アンケート「生徒支援」肯定率 R8：78％(R3:81%,R4:84%,R5:78%) (2) キャリア教育の推進（将来の進学、就職を見据えた進路アドバイスの充実） ア 夢と志を持って将来の自分の人生を切り開いていく力を育成する。 イ 総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の強化 ※学校評価アンケート「進路決定している（3年）」R8：80%以上を維持 (R3:87%,R4:86%,R5:90%) (3) 探究的な見方、考え方を身につけ、横断的、総合的な学習を行うことを通して自己の在り方、生き方を考えさせる。 (4) 高大連携により、大学教育に触れる機会をつくり、研究や学問が社会の中で如何に活用されているかを理解し、学びに向かう力を育成する。 (5) 安心して通える学校環境の整備 4 学校力の向上 (1) 教職員の課題発見、解決能力の向上 ア OJT を通した教職員の育成を通して、自ら課題に取り組み、解決のため努力する教職員集団をめざす。 イ 実践的な教職員研修を行い、授業力、生徒指導力、教育相談力等の向上を図る。 ※学校評価アンケート「教材や教え方を工夫している」R8：85%以上を維持 (R3:90%,R4:90%,R5:90%) (2) 働き方改革 ア 業務の統合や効率化を図り、教材研究の時間及び生徒と向き合う時間の確保に努める。 イ 分掌、各種委員会等の組織及び個々の業務内容の見直しを図り、組織で取り組む力の向上をめざす。 ※ストレスチェック職場評価改善 総合リスク R8：115 以下を維持 (R3:133,R4:109,R5:117) (3) 広報活動の充実 学習支援クラウドサービス、HP、学校説明会等により、生徒、保護者、中学生等に対して学校情報を積極的に伝える。 ※学校説明会満足度 R8：95%以上を維持 (R3:100%,R4:99%,R5:99%)
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒結果 ・学校に行くのが楽しい。（肯定的回答 R5 75.6% → R6 85.1%） →9.5 ポイント上昇。文化祭では、コロナ禍以降取り組めていなかった調理部門を再開したり、キャッシュレス化を導入したりするなど、学校行事をフルサイズで実施するとともに、新たなことにチャレンジできたことが大きいと思われる。教員の指導や温かい見守りもあり、昼休みに中庭を使って、活発にイベントが行われるなど、これまで以上に生徒がのびのびと力を発揮できる場面が増えたのではと思われる。	第1回（令和6年6月19日開催） ◎「学校経営計画」の「めざす学校像」「中期的目標」を＜承認＞ ●学校経営計画について 委員 私立に進学する生徒の割合が増えている中、公立高校が特色を出していくことは難しいと考えられるがどうか。 学校 地域のイベントに、吹奏楽部やジャグリング部、ファンクダンス部などが参加したり、生徒会などがボランティアとしてお手伝いするなど、地域との連携を深めている。近隣の小中学校との関わりを増やし、本校をアピールしていきたい。

府立交野高等学校

- ・教材や教え方に ICT を含めて、様々な工夫をしている先生が多い。
(肯定的回答 R5 89.8% → R6 94.5%)
→4.7 ポイント上昇。プロジェクターや1人1台端末の利用、グループ学習や調べ学習、意見交換などの授業スタイルが、生徒に定着してきたことが、ポイントが上昇した要因と考えられる。
- ・授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある。
(肯定的回答 R5 84.3% → R6 91.5%)
→7.2 ポイント上昇。授業でペアワーク、グループ学習などの学習形態の定着が進み、生徒も安心して発表できる雰囲気ができていることも大きいと考えられる。主体的、対話的で、深い学びにつなげていきたい。
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる。
(肯定的回答 R5 48.1% → R6 67.5%)
→19.4 ポイント上昇。生徒指導部を中心に、指導時に丁寧に説明を添えて、生徒の納得を引き出している成果と考えられる。今後も、なお一層の丁寧な指導をこころがけ、生徒が納得できる指導を行っていきたい。

保護者結果

- ・学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。
(肯定的回答 R5 79.9% → R6 75.3%)
→4.6 ポイント下降。R4年度4.2ポイント下降後、R5年度1.2ポイント上昇したものの、本年度さらに下降した。進路や職業などについての指導の情報発信を保護者にも行っている。学校の情報発信が保護者にもよく見えるよう工夫が必要と思われる。
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる。
(肯定的回答 R5 64.0% → R6 70.7%)
→6.7 ポイント上昇。合格者説明会や懇談、PTAの会合など様々な機会を捉え、保護者への説明を行ってきたことが、理解を得ることにつながっていると考えられる。生徒の数値に比べ、保護者の共感が高いのは、保護者が指導を求めているためと思われる。70%を超える肯定的回答を得ていることから、今後も方向性は変えずに丁寧な説明や指導を行い、生徒指導の方針をしっかりと説明していきたい。

教員結果

- ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。
(肯定的回答 R5 71.1% → R6 70.6%)
→0.5 ポイント下降。R5 年度、8.3 ポイント上昇しており、その傾向が維持できたと考えられる。教育活動の自己評価を行い、次年度の計画に生かすことは重要なことであることをしっかり認識し、取り組んでいきたい。
- ・教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。
(肯定的回答 R5 71.8% → R6 76.5%)
→4.7 ポイント上昇。これまでも学習支援クラウドサービスで、生徒や保護者に発信してきたが、今年度はさらに、ICT 推進委員会を中心に HP の改定を行い、シンプルに見やすくするとともに、校長自身も頻繁にブログを更新するなど、学校の様子がわかりやすくなるよう改善した。さらに、地域への発信については、交野市との包括連携協定、大阪府の SaftyBicycle 推進校の指定、交野警察の防犯モデル校の指定を受けるなど、地域との連携が進んだことも大きいと考えている。その反面、教員の業務量の増加と偏りが懸念されるため、次年度は、業務の平準化とスリム化を見据えた取組みで、生徒・保護者や地域へ、本校の教育活動についてさらなる周知に努めたい。

委員 食堂がないことは、大きな課題と考えるがどうか。

学校 自販機で軽食の販売もしているが、食堂設置や食堂に代わる対応を検討している。

●交野高校に期待すること

- ・ 交野高校の生徒が将来を見ずえて生きていけるようにするには、どうしていくのかをぜひ考えていただきたい。
- ・ 高校は生徒たちにとって次のステップのための中間ポイントであり、将来の自己形成のためにある学校であってほしい。

第2回（令和6年11月18日開催）

○教科書選定について

- ・提出資料のと通りの選定について報告

○授業視察後のご意見

- ・真面目におちついて授業に取り組んでいる。
- ・生徒同士の活動も多い。
- ・様々な形態の授業が見られる。
- ・廊下、階段がきれいになっている。

●交野高校に期待すること

- ・私学に負けないような特色・魅力を考えていただきたい。
- ・公立学校は教職員の転勤があるため、作った特色を継承していただきたい。
- ・進学実績が伸びている。引き続き頑張ってもらいたい。
- ・交野市との連携は、ぜひ進めていただきたい。

第3回（令和7年2月19日開催）

○令和6年度学校経営計画の評価について

- ・補習を積極的に行っていることを、もっと保護者へ伝えるべき。
- ・アンケート結果で、先生方がカウンセリングマインドを持って生徒と関わりを持っているのがよく分かる。文化祭等で生徒が活躍できる機会が多いことも要因だろう。

○学校教育自己診断の結果と分析について

委員 「将来の進路」とは進学先のことだけではないとわかる文言にするべき。

学校 大学や専門学校という進路を考える際には、その先の職業のことも指導している。

委員 授業の評価に関する質問が特に高評価だが、その要因は何か。

学校 授業ではペア活動やグループワークが多く、生徒が楽しそうに受けている。
ICTの導入が本格的になり、上手く授業に取り入れられる教員が増えた。

委員 「授業が楽しい、分かりやすい」と答えた割合が高いのは、先生方の生徒との関わりがしっかり反映されていると思う。

●交野高校に期待すること

- ・学校説明会は絶好のアピールの場、本校の良さを一層伝えてほしい。
- ・SNS を上手く活用してアピールをしている学校は人気がある。

府立交野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	（１）教科指導の充実による学力の向上 ア・基礎的、基本的な知識及び技能を確実に定着 ・思考力、判断力、表現力の向上 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	（１） アイ ・１人１台端末や ICT 機器等を効果的に活用し、発問や授業形態の工夫など授業改善に取り組む。 ・アクティブラーニングの視点からの実践を通して、教科で協働的に授業改善を図る。 ・これまでの研修の経験を踏まえ、全体での研修の充実を図るとともに、公開授業週間を設け、相互に授業見学することにより授業力の向上をめざす。	（１） アイ ・授業力向上研修の実施 ・各教員が公開授業と２回以上の授業見学を実施し助言作成 ・授業アンケート満足度 【生徒意識 1，2】3. 25 [3. 26] ・生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」肯定率 57% [53%] ・生徒アンケート「１人１台端末の効果的な活用」肯定率 80% [89%]	（１） アイ ・研究授業の実施（11 月）（○） ・２回以上の授業見学（１学期と２学期に実施）と助言作成（○） ・授業アンケート「授業に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身についた。」における評価 3. 29（○） ・生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」肯定率 72. 4%（◎） ・生徒アンケート「１人１台端末の効果的な活用」肯定率 93%（◎）
	ウ 学習に向かう意識の向上	ウ・学習支援クラウドサービスによる週末 Web テスト、自習室、図書室の活用等を通して、学校全体に学習する雰囲気を生み出し、家庭学習の定着につなげる。	ウ ・授業アンケート肯定的評価 【生徒取組 1，2】3. 30[3. 28]	ウ ・授業アンケート肯定的評価 【生徒取組 1，2】3. 28（△）
	（２）進路指導の充実 ア ３年間を見通した進路指導計画	（２） ア・３年間を見通した進路指導計画に基づき、学力生活実態調査等を活用して、分析に基づいた進路指導を行う。 ・学力生活実態調査のリトライ指導を徹底する。 ・１・２年生は長期休暇中に実力養成講習、３年生は早朝、放課後、長期休暇中等に進路講習を実施する。	（２） ア ・一般入試受験者 35% [30%] ・希望進路達成率 90% [98%] ・開講講座数 25 [21 講座]	（２） ア ・一般入試受験者 25%（△） ・希望進路達成率 97%（○） ・開講講座数 18（△）
	イ 進路選択に対する意欲の喚起	イ・社会人（卒業生等）講演、外部模試、進路ガイダンス等によって、自己の進路実現に向けて取り組む姿勢を養う。 ・各種資格テスト等の受験、各種コンテストへの参加を推進する。	イ ・自己診断「進路選択に関して学ぶ機会がある」 肯定的回答 85% [84%] ・外部模試受験者延べ数 500 名以上 [452 名]	イ ・自己診断「進路選択に関して学ぶ機会がある」 肯定的回答 92%（◎） ・受験者 延べ 498 人（○）
	（３）各コース内容の充実、学力の３要素、英語４技能習得 ア 英語専門コース	（３）各コースにおいて進路決定につながる取組みを行う。学力の３要素、英語４技能習得を推進する。 ア ・オーストラリア・ホームステイプログラムを実施する。 ・関西外大と連携し、英語 one day キャンプを実施する。 ・英語検定の合格者数の増加をめざす。 ・２年でスピーチコンテストを実施する。	（３）「将来の進路決定に専門コースが役立っている。」70% [69%] ア ・生徒の満足度 95% [100%] ・生徒の満足度 95% [100%] ・英検合格 ３級 60% [54%] 準２級 30% [25%] ２級 5 名 [3 名] ・生徒の満足度 85% [86%]	（３）「将来の進路決定に専門コースが役立っている。」76%（○） ア ・オーストラリア・ホームステイプログラム 生徒の満足度 100%(◎) ・Oneday キャンプ 生徒の満足度 100%（◎） ・英検（３級 47%、準２級 23%、２級 2 名）（△） ※３月上旬結果 ・２年スピーチコンテスト 生徒の満足度 90%（○）
	イ 理数専門コース	イ ・摂南大と連携し、大学での実験・実習を実施する。 ・理系進学実績の向上をめざす。	イ ・摂南大学との連携 生徒の満足度 90% [100%] ・理系の進路達成 70% [80%]	イ ・摂南大学との連携 生徒の満足度 100%（◎） ・理系進学の実績 79%（○）
	ウ 学芸コース	ウ ・様々な進路に対応した指導やカリキュラムの充実をめざす。 ・ビブリオバトル（１年生全員、２年以降は学芸中心）を実施し、プレゼンテーション能力の向上と読書習慣の定着をめざす。	ウ ・ビブリオバトル参加者 生徒の満足度 90% [94%]	ウ ・ビブリオバトル参加者 生徒の満足度 90%（○）

府立交野高等学校

2 豊かな人間性の涵養	（１）特別活動や部活動等での自主性、協調性の育成	（１） ・生徒会活動、校外学習、修学旅行などの行事を活用し、生徒の豊かな感性を育み、主体的に取り組む姿勢を育て、協調性、人間性を磨く。 ・生徒会活動が自主的な形となるよう意識の向上をめざし、生徒全体に広がるように促す。 ・体験入部の実施をはじめ、指導の充実や活動 PR により、部活動の活性化を図る。 ・地域と連携した活動の充実を図る。	（１） ・行事に対する満足度 80% [76%] ・部活動加入率 70%以上[73%] ・学校の特色に対する満足度60% [49%] ・地域と連携した活動を年間3回以上実施。 [4回]	（１） ・行事の満足度 88% (◎) ・部活動加入率 67.4% (△) ・学校の特色に対する満足度 61% (○) ・地域と連携した活動 8回 (◎) ・交野市と包括連携協定締結 ・交野警察署防犯モデル校指定 ・大阪府 SafetyBicycle 推進校指定
	（２）基本的生活習慣と規範意識の醸成 （３）人権教育の充実	（２） ・教員が毎朝校門で生徒を迎え、挨拶・服装・遅刻指導を実施する。また、丁寧な頭髪指導等を行い、落ち着いた学習環境の維持に努める。 ・生活指導の意味を生徒、保護者にしっかりと伝える。 ・清掃活動を学校全体で取り組み、美化意識の向上に努める。 （３） ・障がい者の人権や同和問題、拉致問題などについて、3年間を見通した人権教育を計画的に行なう。また、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会の向上に努めるため、外部人材を積極的に活用し、多面的なアプローチにより人権について考える機会を充実する。	（２） ・遅刻者数 現状を維持 [7.1人/日] ・保護者アンケート 「生徒指導の方針に共感できる。」肯定的回答 70% [64%] ・生徒アンケート 「学校は清掃活動が行き届いていて清潔である。」肯定的回答 55% [47%] （３） ・生徒アンケート 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定的回答 90% [77%]	（２） ・遅刻者数 6.7人/日 (◎) ・保護者アンケート 「生徒指導の方針に共感できる。」肯定的回答 71% (○) ・生徒アンケート 「学校は清掃活動が行き届いていて清潔である。」肯定的回答 63% (◎) （３） ・生徒アンケート 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定的回答 87% (△)
3 生徒支援の充実	（１）教育相談体制の充実による適切な支援 （２）キャリア教育の推進（進学の先を見据えた将来職業アドバイスの充実） （３）探究活動の充実 （４）高大連携の発展	（１） ・支援の必要な生徒に対して、学年主任、担任、養護教諭を中心として教職員が連携し、速やかに対応する。 ・生徒支援委員会によって情報を共有し、個々の生徒に対する適切な支援方法を学校全体で組織的に考えていく。 ・スクールカウンセラーを十分に活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上に努める。また、教育相談に関する情報の周知を図るため広報活動を充実させる。 （２）一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 ・社会人(卒業生等)講演等を通して生徒自身の職業適性を発見させる。 ・分野別説明会等の充実を図り、将来の進路や生き方について考えさせる。 ・近い将来、社会で働くことを意識させる取組を充実させる。 （３）地域や企業と連携した探究活動の更なる充実をめざす。また、探究的思考を積極的に導入し分析や発表の機会を充実させ、思考力、実践力を育成する。 （４）高大連携により、大学教育に触れる機会をつくり、学びに向かう力を育成する。	（１） ・「いじめなど生徒が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。」80% [78%] ・「生徒一人ひとりにきめ細かい指導を行っている。」80% [77%] ・教員の「SCの活用状況」肯定的評価 80%以上を維持 [74%] （２） ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定的評価 95% [91%] ・「自分の将来、進路を決定」肯定的評価の増加 [1年 53%, 2年 62%, 3年 90%] →2年 70%以上 3年 90%以上 （３）地域や企業と連携した探究活動を年間5回以上 [7回] （４） ・関西外大と連携満足度 95% [100%] ・摂南大と連携満足度 90% [100%]	（１） ・「いじめなど生徒が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。」90% (◎) ・「生徒一人ひとりにきめ細かい指導を行っている。」100% (◎) ・教員の「SCの活用状況」肯定的評価 88% (◎) （２） ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」92% (△) ・「自分の将来進路は決定」肯定的評価 61% (△) （３）地域や企業と連携した探究活動 13回 (◎) （４） ・関西外大と連携 肯定的評価 100% (◎) ・摂南大と連携 肯定的評価 100% (◎)

府立交野高等学校

4 学校力の向上	（１）教職員の力量の向上 （２）働き方改革 （３）広報活動の充実	（１） ・授業、部活、HR、日常業務等について、経験年数の少ない教員を中心とした OJT 勉強会を実施する。 ・教職員研修や研修報告会、模試結果活用会議等を行い、生徒指導力、教育相談力、進路指導力等の向上を図る。 ・分掌や教科等の各組織における教育活動の振り返りを行い、次年度の活動の充実を図る。 （２） ・業務の統合や効率化を図り、教材研究の時間および生徒と向き合う時間の確保に努める。 ・部活動方針を遵守し、活動時間、指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・課題に応じた委員会を立ち上げ、学校組織体制の見直し・運営などの改善を図る。また、探究委員会、ICT 委員会のメンバー構成や業務の整理を行う。 （３） ・学習支援クラウドサービス、ホームページ、学年メルマガ等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。 ・地域のイベントに積極的に参加し、部活動や教育内容の周知を行う。 ・学校説明会、中学校訪問の充実を図る。	（１） ・OJT 勉強会 10 回 [10 回] ・教職員研修 5 回 [5 回] (回数の維持と質の向上) ・自己診断「日常的な話し合い」 肯定的回答 85% [84%] （２） ストレスチェックの職場評価 仕事負担低下と職場支援アップ による総合リスク改善 [117] ・全教員の時間外勤務時間の月時間 平均を 30 時間以下とする。 [31 時間] （３） ・HP 更新 150 回以上 [158 回] ・学習支援クラウドサービス発信 2000 回 [2829 回] ・学校説明会満足度 95% [99%]	（１） ・OJT 勉強会 10 回 (○) ・教職員研修 5 回 (○) ・1 人 1 台端末関係の研修が充実 ・自己評価「日常的な話し合い」 肯定的回答 76.4% (△) （２） ・仕事負担低下と職場支援アップによる総合リスク 89 (◎) ・全教員の時間外勤務時間の月時間 平均 30 時間 (○) （３） ・HP 更新 170 回 (◎) ・学習支援クラウドサービス発信 3570 回 (◎) ・学校説明会満足度 98% (○)
-------------	---	--	---	---